

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還交渉Ⅱ-3（対内）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45931

対沖繩

(半北一長出版等)

万機

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

35

電信写

大政事外外務省
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 儀密文会密給

総番号(TA) 52982
 69年 11月 21日 23時 15分
 69年 11月 22日 13時 24分

主管

シ-ヨ-1
本 省 発着 米

外務大臣殿 岡田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ百万同ほろにおくる言は発表

第957号 平

21日。21時ウオールドルア。アストリア。ホテルにて発表した

米に転電した。

(3)

総人電厚計
 國資長領移長
 參調折企
 參領旅移

ア 參地中東
 長 北東西
 米長 參北北保
 中南審
 歐 參西東洋
 長 西東

近ア長經
 參審近ア
 次總經國万
 長經長長參
 參貨航國
 參政技二
 國一理
 參參協規
 國 參政經科
 長 軍社專
 參道内外
 一二

27

要字 部

宛電符 總第 58618 号
昭和 44.11.24 日 時 分 發

漢

24-121

電信課長 *[Signature]* 電信案 (分類)

暗 <u>略</u> 平	第 <u>462</u> 号 (LIF)	<u>大臣</u>
大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長	主管 <i>[Signature]</i> 主任 <i>[Signature]</i>	起案 昭和 44年 11月 24日 起案者 <i>[Signature]</i> 電話番号 644 (内)

~~岸田首相~~ ~~外務省~~
 閣議決定
 報告書
 報告書

在 カンパネラ 島 臨時代理 大 公 使 宛 大平 大臣 務 代 理
 総 領 事

電 報 在 朱 下 田, 十 二 日 所 大 公 使 宛 総 領 事

件 名
 總理 訪 朱 成 果 以 内 外 務 省 長 官 席 說 明
 牽 涉 局 長 大 河 原 氏
 1. 本 報 20 日 所 載 之 以 外 北 米 第 一 探 長 以 23 日 沖 繩
 12 日 之 高 魂 大 使 兼 第 一 探 長 之 說 明 後 同 日
 午 後 約 1 時 向 第 一 探 長 官 席 公 報 以 外 12 日 之 探 長 官 席
 知 悉 副 探 長 官 席 亦 知 悉 矣 今 次 外 務 省

寫 濟

24-121
561

GB-1 外務省 回覽番号 3789

の経緯と意義、及び共同声明の各項につき詳細
説明を行ない、また関係資料を手交した。

その際冒頭主席は襟を正して「よい時期により
総理及びよい外務大臣が在職され並になさぬ
努力を払われたことは、国のため沖縄のため

感謝にたえず」と述べ、「自分は個人として

政府の御苦労はよく分っているつもりだが、沖縄県民

代表としては、最大公約数的なことを公けに発言

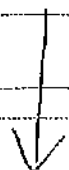
せざるをえないことをよく了承してほしい」と付言

した。(なお副主席によれば、^{早朝}22日の主席スピーチ

メントはすでに前日共同声明を見ないうちに

~~（この日政府が資料提供の共同声明テキストを提出し、~~
作っており、そのあとの一問一答に主席の真情が

吐露されている由。)



(1) 先方が持に問題としたのは、第8項の読み方で「軍前協議制度に関する米政府の立場と害する^{こと}なく」と「日本政府の政策に背馳しないよう実施する」との関連がよく分らず、これは互に矛盾しているのではな^から^いかとの疑惑が琉球政府首脳の間にあることであつたので、当方は愛知大臣の説明要旨等により、この項の意味は「米軍は返還時核兵器を撤去し、同時にすべ^い安定条約体系のもとで保持して^いる軍前協議の権利を再確認(対自国々内配慮上)したのみであり、互に矛盾はな^から^い旨説明をおいたことより、よく分つた」と述べていた。

(2) 二のほか先方は次の如く述べた。

(1) 5項目の質問として (A) 1972年返還は

動かぬか(動かすと答へおいた。以下カッコ内同じ)

(B) 基地の自由使用はあり得るか (否)、

(C) B-52の自由出撃は考えられるか (否)、 (D)

空保堅持は政府の基本政策か

(然り) (b) 中絶基地の「重要性, 正認性」として基地の

地盤固定化の意味が不明(否), ~~(否)~~

^{共同目的の}
(c) ~~3ヶ年~~ 延長として (A) 概・BS2・自由使用の是非
不明確 (b) 安価堅持 かつこれと基地固定化の

印案が後の (c) 基地の縮小整理・合意研案等が

明記に必要 (是等の地位協定の施行に於ける

予ての問題であるが 復原準備段階でモネ化と発表

意思を疎通する機会がある点述べた。

(3) ~~また~~ ~~また~~ ~~また~~ 復原準備に因り 才10題に

つて 詳細な法的正認性を 是等の背景から今後

予想可能な取扱い等について 解決(おいて) 主席

は ~~懸念~~ 出された限り 衆尼の利益を反映する努力

をいと述べた。 (「^と籠内」の地位に於ては、とて高湖

大規模の予算を有る 全然に於ては 日有る 在る 具

体的にどう いう 役割を果すかと 疑問 した ので、 用下

当方と検討中であり、意見ありは是非論おせはしない旨

要旨として承諾した。 (此材料は云々記者会見で執行部あり)

(4) 上述の要旨を以て環球時報及び外報小紙、これ相当正確に報道した。 2. 24日午後 ~~18時~~ 主席は記者会見 (注: 此材料)

得るに及ばず、在土の向ヶ出等後) 正行ない、⁷「本土政

府の解親正同得るに及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

府に及ばず、⁷「本土政

(1) 基地の整理縮小に筋が通っていること。

(2) 安保の中での沖縄の重要性正合意に及ばずのこと。

島内得出来ぬ ~~こと~~ こと。

(3) 概の肉題が明瞭なものである上、B-52 Aの安保

体制の肉題が沖縄に及ばずのこと。

朱A20+11 26所に転電した。

(回覧番号)) 外務省電信案 (分類)

電報部長 3)	機密表示 (極秘・密の朱印)	符号表示 暗 略 (平)	総第 587 号 587 号
	秘 扱	合第 4775 号	昭和 44 年 11 月 24 日 23 時 32 分
		大至急・至急・普通・LTF	発電係

(※印欄内は電信課配心)

大 使 政 務 次 官 参 事 次 官 外務審議官 外務審議官 官 房 技	主管 アメリカ局長 参 事 官 北米才一課長	主管局部課 (室) 名 米北1 起案 昭和44年11月24日 起案者 電話番号 米北1長
--	---------------------------------	--

協談先

大 使 臨時代理大使
 在 ~~トウキョウ~~ ~~ソウゴウ~~ ~~シヤン~~ ~~フ~~ ~~ラン~~ ~~シ~~ ~~ス~~ ~~コ~~ 総領事 代理
 ナニヤ所 総領事 代理
 あて 外務 大臣 発 代理

電 報 在 大使 臨時代理大使
 総領事 代理 あて

件名 経理訪米の成果に因り対尾良主席説明

シヤンフランシスコ あて 往電米北1 第462号

転電

(昭和四二・七一改正)

24 済 23
 字

席着記

○「席着記」... 「席着記」の著者「アリス」は、本誌「アリス」の編集者「アリス」の筆名である。本誌「アリス」の編集者「アリス」は、本誌「アリス」の編集者「アリス」の筆名である。

アリスの席着記

「アリス」の著者「アリス」は、本誌「アリス」の編集者「アリス」の筆名である。本誌「アリス」の編集者「アリス」は、本誌「アリス」の編集者「アリス」の筆名である。



「アリス」の著者「アリス」の肖像写真。

「アリス」の著者「アリス」は、本誌「アリス」の編集者「アリス」の筆名である。本誌「アリス」の編集者「アリス」は、本誌「アリス」の編集者「アリス」の筆名である。

核なし復帰に希望

屋良主席が記者会見



屋良主席

【朝刊二十一日東京二十一日電】日本共産党中央執行委員会が二十一日午後、記者会見で、日本共産党の核なき復帰問題について、記者の質問に答へた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。

屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。

屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。

屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。

過激な行動 B

52なども原因

屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。

屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。屋良主席は、核なき復帰の希望を述べたが、同時に、核なき復帰の条件として、米軍の撤退を求めた。